

『ウィーンでも活躍する歌手3名と ピアニスト1名によるクラシックコンサート』

《概要》

2021年12月18日としま区民センター小ホールにて『ウィーンでも活躍する歌手3名とピアニスト1名によるクラシックコンサート』（昼公演）を開催。

山本澄奈（ソプラノ）、日野妙果（メゾソプラノ）、佐藤洋（テノール）、南部由貴（ピアニスト）が出演。出演者全員がウィーンで音楽活動を行っている、またはウィーンから日本に戻り音楽活動を行っているプロの音楽家によるコンサート。

ドイツリート、オペラアリア、オペラ重唱からなるプログラム、日本語字幕付き公演。

《目的・達成したい成果》

音楽愛好家にオーストリア・ウィーンの響き、本格的な生演奏を届けたい。またドイツ語、その他の外国語の字幕付き公演にすることにより、歌詞の素晴らしさと音楽の融合を知ってもらいたい。この演奏会を通じてドイツリート、オペラアリア、クラシック音楽の本当の価値を感じていただく。クラシックのコンサート初心者の方でも、もう一度聴きたいと思っただけのような公演にしたい。

出演者、検温スタッフ、誘導スタッフ、チラシのデザイナー翻訳と字幕の制作者、それぞれに正しく対価：報酬を用意する。

《将来の夢》

日本でも多くの人達が、音楽家として生計を立てられるように、クラシックファン・音楽愛好家を増やしていきたい。今現在はCD、DVDだけでなく、youtubeなどを通して演奏を配信する機会が増えてきているが、電気信号に変換されない生の演奏を楽しめる環境は重要である。そのために私は、配信だけでなく「クラシックコンサートを会場で聴く＝クラシックをクラシカルなスタイルで聴く」ことができるイベントを、変わらず残していきたいと考えている。

そこで、いわゆるクラシック定番の曲以外に、日本で好まれるような楽曲を選曲し、あまり知られてない曲でも丁寧な説明や字幕を付けるなどの工夫をすることで、多くの人に楽しんでもらえるコンサートを実施していきたい。

《プロフィール》

佐藤 洋（テノール歌手）

国立音楽大学卒業後渡欧。ウィーン市内外の多くのオペラに出演する他、教会等で古楽・宗教曲のソリストを務める。

オペラではドン・オッターヴィオ、バジリオ、ゴローなどの役を度々務める他、アン・デア・ウィーン歌劇場の”NEMESIS”初演に時計役として出演。ウィーン国立歌劇場合唱協会に属し、国立歌劇場、ザルツブルグ音楽祭のオペラに出演。アルノルト・シェーンベルク合唱団の団員としてアン・デア・ウィーン歌劇場の他、ヨーロッパ各地の公演に出演。

2019年以降日本でもソリストとして様々なコンサートに出演している。

【受賞歴】

2018年「クラシック・ピュア・ウィーン国際コンクール 2018 声楽部門」ファイナリスト（上位6名）特別賞受賞（オーストリア）。」2019年1月「大阪中央ロータリークラブ創立35周年記念音楽コンクール声楽部門」入賞。

同3月「万里の長城杯国際音楽コンクール」優秀賞。

同7月「第2回日本歌曲コンクール in 薬師寺」ファイナル出場。

同11月「第30回日本ドイツ歌曲コンクール」第2位。

同12月「第29回日本クラシック音楽コンクール声楽部門一般男子の部」全国大会最高位受賞。他